

風に乗って

佐藤 洋子 福島県双葉郡 六十歳

「お帰りなさい。待ってたよ。」

そんな囁きが聞こえた気がしました。雑草だらけの浪江町の自宅の庭に、クリーム色の小さな花がまるで滝のように連なって咲いています。それは東日本大震災の二年程前に植えられたモッコウバラ。ホームセンターから買ってきた、あのひよろーんとした苗が、一時帰宅した私の目の前で見事に咲き誇っています。

原発事故による避難指示で福島市に避難。その後、週末だけ自宅に戻り、家の片付けが精一杯の日々が続きました。とても庭の手入れなどする余裕はありません。いや、花が咲いていても、それを観る気持ちになれない日々でした。それでも季節ごとに花々は健気にたくましく咲いています。時が経ち、私も少しずつ顔を上げることができるようになりました。

自宅に戻る際、帰還困難区域となった山間部を通り抜けます。誰一人いない、それぞれの家の庭先に咲くコブシ、モクレン、サクラ、ハナミズキ……。震災前これらの木の周りは家族の笑顔にあふれていたことでしょう。誕生の時、入学の時、結婚の時、新築の時。節目節目に家族の幸せを見守ってきたはずです。

季節は巡り、今日も花々は凜として咲いています。

「元気であるよ。いつかまた会いたいな。」

花々のそんな囁きが、全国に避難された方達に届きますように。浪江の風に乗って。